

# 2012年3月期 決算説明会

2012年5月30日（水）

代表取締役社長 中川 博司



1. 2012年3月期 決算概要
2. 受注状況について
3. 次期（2013年3月期）の計画
4. 事業展望と課題の進捗状況

# 1. 2012年3月期 決算概要

## 2012年3月期 連結業績(前期との比較)

Ina Research Inc.

(単位：百万円)

	前期	2012年3月期	対前期	
	2010年4月-2011年3月	2011年4月-2012年3月	金額	前年同期比
売上高	3,937	2,860	△1,077	72.7%
売上総利益	963	688	△274	71.5%
販売管理費	833	719	△114	86.3%
営業利益	129	△31	△160	—
経常利益	74	△49	△124	—
当期純利益	21	△110	△131	—

## 期初予想との対比

(単位：百万円)

	2011/5/7 発表 期初予想	2012年3月期	対予想	
	2011年4月-2012年3月	2011年4月-2012年3月	金額	対予想比
売上高	3,864	2,860	△1,004	74.0%
営業利益	177	△31	△208	—
経常利益	128	△49	△177	—
当期純利益	71	△110	△181	—

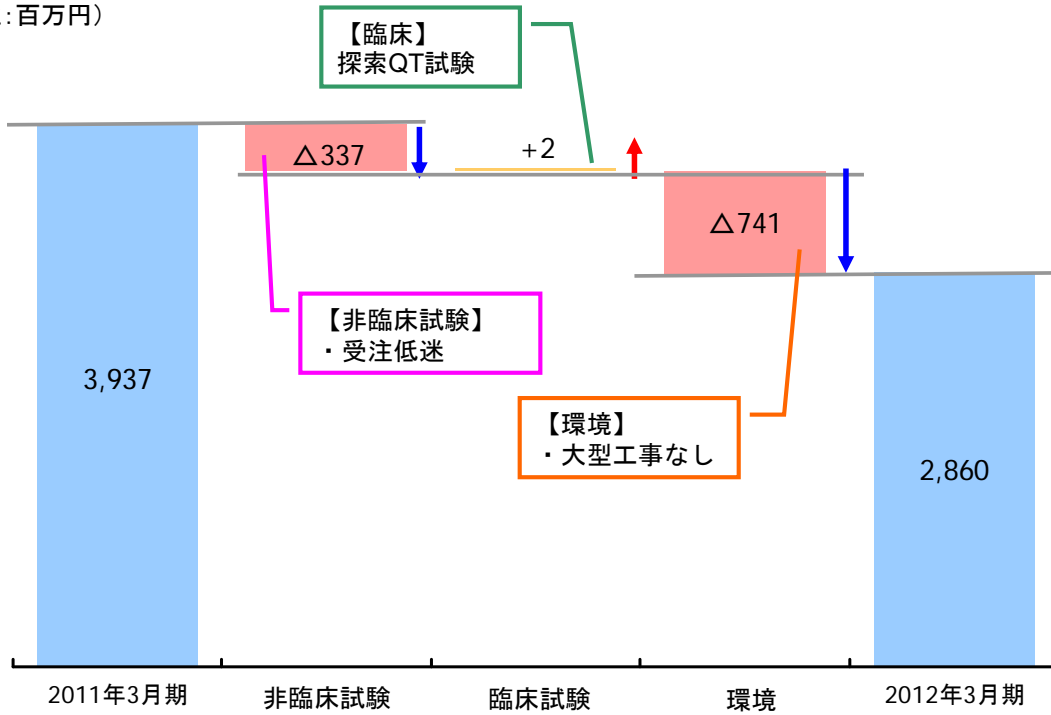
## セグメント別 連結業績(前期との比較)

(単位：百万円)

		前期	2012年3月期	対前期	
		2010年4月-2011年3月	2011年4月-2012年3月	金額	前年同期比
非臨床試験	売上高	3,047	2,710	△337	88.9%
	営業利益	134	40	△94	29.8%
臨床試験	売上高	29	31	+2	109.0%
	営業利益	△36	△45	△9	—
環境	売上高	860	118	△741	13.7%
	営業利益	31	△25	△56	—

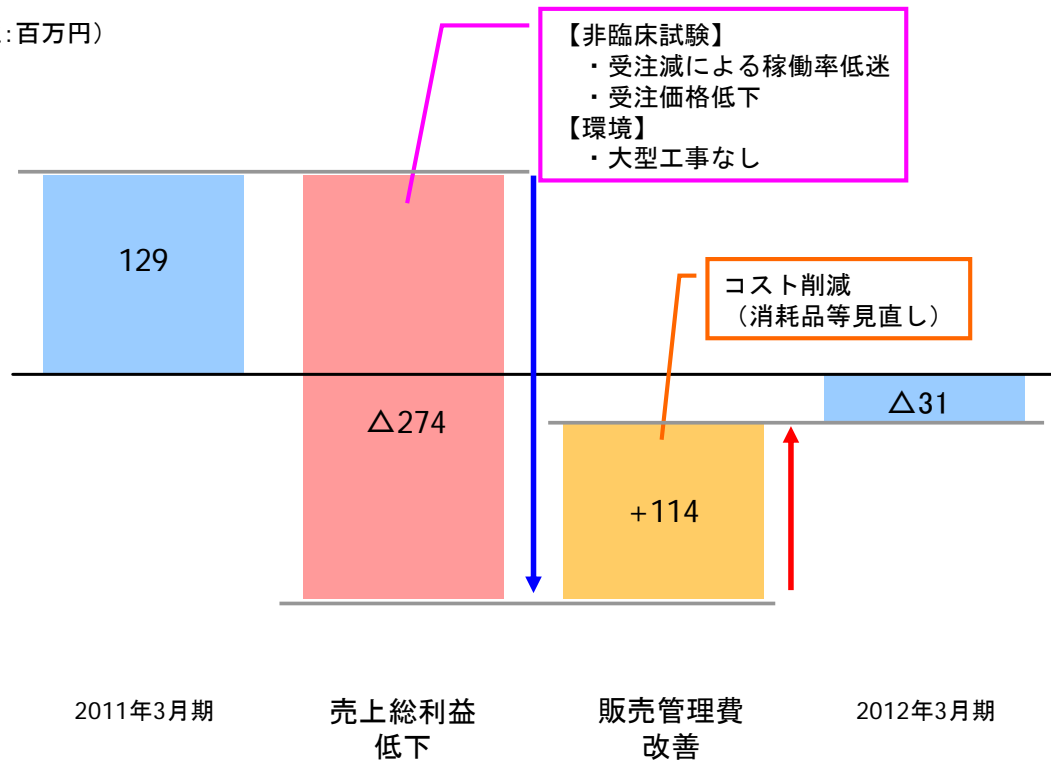
# 売上高増減内訳

(単位:百万円)



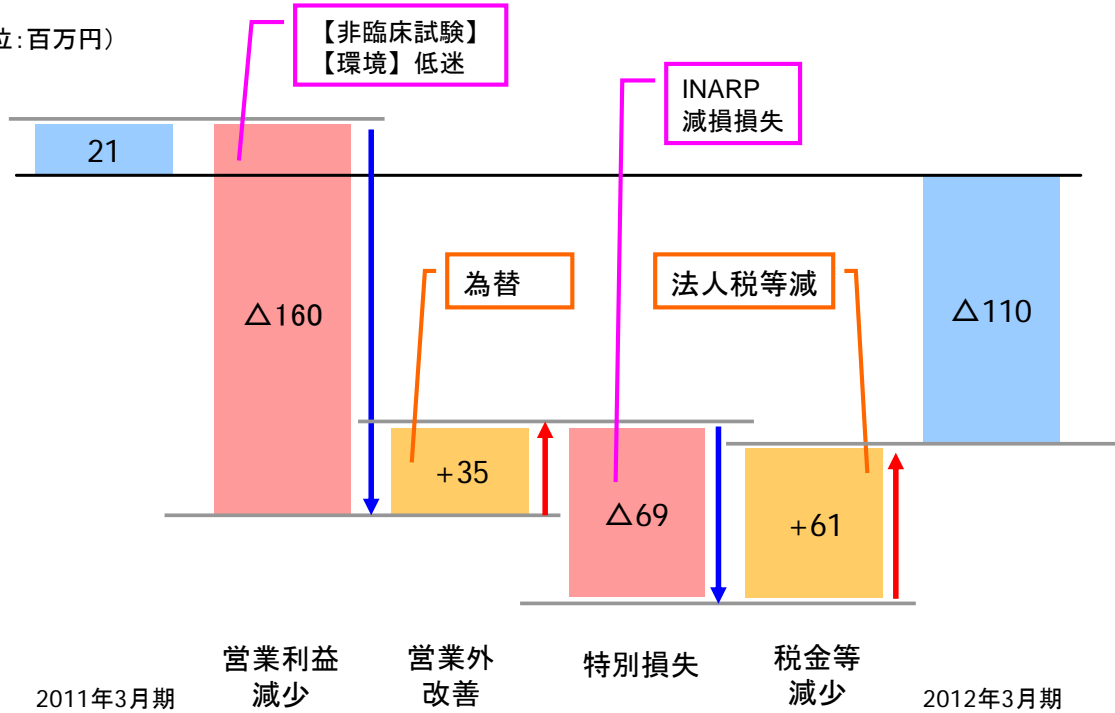
# 営業利益増減内訳

(単位:百万円)



# 当期純利益増減内訳

(単位:百万円)



# キャッシュ・フロー

## キャッシュ・フロー

(単位:百万円)

	2011年3月期	2012年3月期	対前期
営業活動によるキャッシュフロー	343	550	+206
投資活動によるキャッシュフロー	△255	△40	+215
財務活動によるキャッシュフロー	△40	△583	△542

## キャッシュ・フロー関連指標

	2010年3月期	2011年3月期	2012年3月期
自己資本比率 (%) (自己資本/総資産)	33.1	34.6	36.5
キャッシュ・フロー対有利子負債比率 (年) (有利子負債/営業キャッシュ・フロー)	20.1	6.0	2.8
インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍) (営業キャッシュ・フロー/利払い)	2.8	8.1	15.8

## ■配当実績及び当期配当について

				1株当たり配当金
2008年3月期	2009年3月期	2010年3月期	2011年3月期	2012年3月期
1,100円	1,600円	500円	700円	<b>800円</b>

当期につきましては、非常に厳しい業績となりましたが、一時的な特別損失を主因とするものであることから、期末配当金は期初に公表いたしました1株につき800円といたしました。

## 2. 受注状況について

# 受注高・受注残高

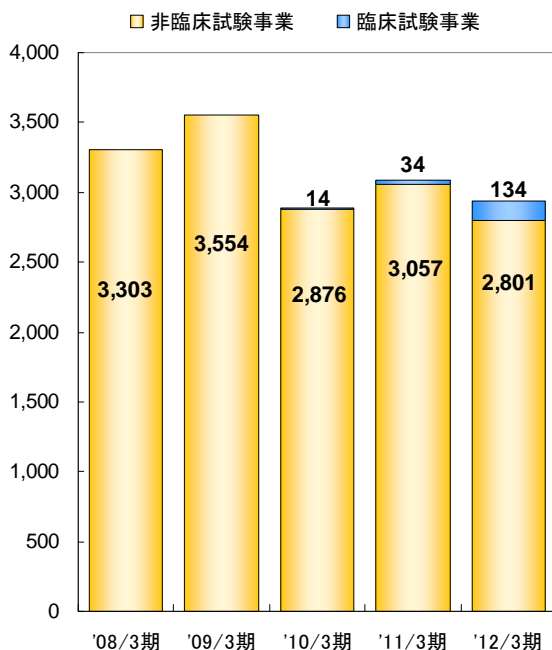
(単位：百万円)

	受注高			受注残高		
	前期	2012年 3月期	前年同期比	前期	2012年 3月期	前年同期比
非臨床試験	3,057	2,801	91.6%	1,869	1,960	104.9%
臨床試験	34	134	390.5%	5	107	1,910%
環境	253	223	88.2%	10	115	1,106%
合計	3,345	3,158	94.4%	1,885	2,183	115.8%

非臨床試験、臨床試験、環境、共に足元の受注が改善してきております

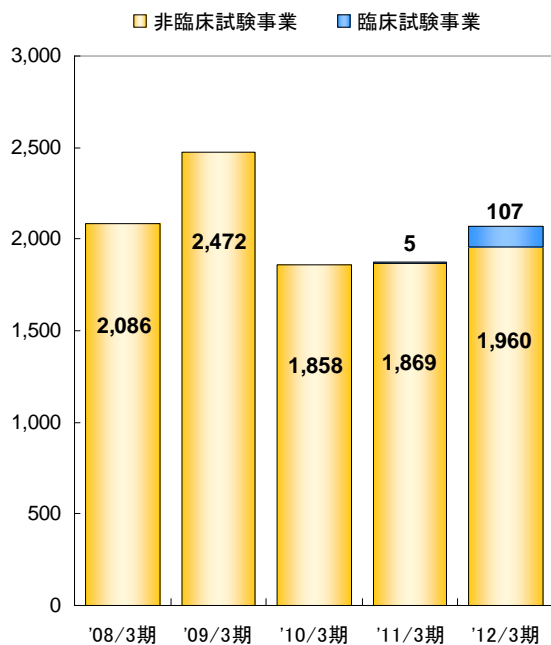
# 非臨床試験及び臨床試験 受注高・受注残高推移

(単位：百万円)



受注高推移

(単位：百万円)



受注残高推移

医薬品業界が成長期から成熟期への転換点を迎えている

- ◆ 全体的な成長時代から成熟期に入り、欧米大手製薬会社は大型新薬に依存する成長戦略から、競合が少なく利益率の高いニッチ市場をターゲットとする戦略に転換しつつある。低分子薬⇒バイオ医薬品
- ◆ 日・米・EUの規制当局の審査基準強化等により新薬承認数は横ばいながら新薬開発費は増加しており、開発の見直し・絞り込みが行われている
- ◆ 国内製薬会社の研究開発意欲は依然高いが、2010年問題もあり、一時的にM&Aや新薬目前の臨床試験に投資をシフトしている

今後の動向

- ◆ バイオ医薬品の開発が盛んになるとヒトとの遺伝子相同性の高いサル試験の需要が高まる
- ◆ 開発費を抑えるための複合毒性試験への移行やFirst in Human（より早くヒトへ）を意識した動き（探索Phase I等）が加速する
- ◆ ニッチな希少疾病用医薬品（オーファンドラッグ）開発のための薬効試験が増加する

## 3. 次期（2013年3月期）の計画



## 2013年3月期 業績予想

(単位：百万円)

	2012年3月期	2013年3月期	対2012年3月期	
	実績	予想	金額	前年同期比
売上高	2,860	3,380	+520	118.1%
営業利益	△31	128	+159	—
経常利益	△49	91	+140	—
当期純利益	△110	51	+161	—

2013年3月期は依然厳しい状況が続きますが、増収・増益の見通しでございます

## 2013年3月期 配当予想について

### 1株当たり配当金

2012年3月期	2013年3月期 予想
800円	500円

→

※参考

2013年3月期 配当性向 29.8%

## 4. 事業展望と課題の進捗状況

### 中長期の事業展望

Ina Research Inc.

売上目標：50億円 (5年以内)

#### 各事業の主な課題

- ◆ 非臨床試験事業：薬効薬理試験の拡販、遺伝子解析を背景としたサル試験の開発、抗がん剤等バイオ医薬品市場でのシェア獲得。
- ◆ 臨床試験事業：サロQT試験、探索臨床試験の受注。米国Cardiocore社との業務提携による心電図解析等周辺ビジネスの確立
- ◆ 環境事業：脱臭施設、防疫関連ビジネスを柱とした安定した売上の確保と利益体質への転換

### カニクイザル遺伝子解析

- ◆ 課題：アレルギー、自己免疫疾患、感染症、ワクチン、ガンなど関連遺伝要因を特定し、それを背景としたサル試験の需要を増大させる
- ◆ 進捗：1) 特性調査（東海大・信州大との共同研究）  
サンプル採取・保存を開始  
2) MHC調査（滋賀医大との共同研究）  
科学技術振興機構（JST）の支援事業に採択（2010.10.19付）

## 臨床試験事業

### サロQT試験の受注～試験開始

- ◆ 課題：
  - ・サロQT(Thorough QT)試験※1 の受注、実施
- ◆ 進捗：
  - 探索QT試験※2を複数試験受注し、実施中
  - 2012年3月期 受注高：134百万円、受注残：107百万円

※1 サロQT試験  
臨床試験の初期段階で医薬品の循環器への副作用をヒト（健常者）により予測評価する試験

※2 探索QT試験  
臨床Phase I 試験に組み込んで実施するQT評価試験

### 受注安定、利益体質構築

- ◆ 課題：
  - ・ 継続的な積極営業活動展開、プロモーション活動
  - ・ 超大型物件プロジェクトや国家プロジェクトへの参画
  - ・ 提携企業の販売網を活用した飼育器材の拡販
  - ・ 新商品の市場導入、拡販
  - ・ 定期メンテナンスの拡大による安定収益の確保
  
- ◆ 進捗：
  - ・ 口蹄疫や鳥インフルエンザ等畜産業界・養鶏業界を根底から脅かす感染症に対するソリューションの提供
    - 防疫対策施設の開発・販売
    - 殺菌洗浄新商品（弱酸性ソフト水）の販売開始
  - ・ 脱臭新商品（カーボハニカム）の市場導入開始

## 提携事業の推進

### 提携先企業の販売網活用による拡販

- ◆ 全国の研究施設への実験用サルの販売
- ◆ 心電図解析ビジネスへの参入・拡大 → アジア地域での事業展開
- ◆ 食品臨床試験のユーザー拡大
- ◆ 環境事業商品（空調システム、飼育器材等）の販売
- ◆ 韓国におけるサル試験の獲得

### 提携先技術の活用によるビジネス拡大

- ◆ TK分析のキャパシティ拡大

## 非常時における事業実施継続体制確立

東日本大震災の警鐘に基づき、震災対策ならびに災害後の事業継続の重要性を再認識し、顧客の要望に応えるべく以下の取り組みました。

- ◆ 電力確保：自家発電による100%供給体制整備完了しました  
自家発電燃料備蓄の増強実施しました
- ◆ 耐震対策：建屋・機器設備の耐震対策完了しました
- ◆ 給水対策：井戸掘削が完了し、新たな水源を確保しました

# ヨーロッパ支所の閉鎖

## 経営合理化策 1

当社グループは、医薬品の開発支援サービスを国内外に展開しており、世界有数の製薬企業が多数所在している欧州については、平成22年3月にスイスに営業拠点を開設し、非臨床試験市場の開拓を図ってまいりました。

現地に販売網を構築し、大手の製薬会社及び化学品製造会社からの新規受注を獲得するなど、着実に欧州における当社のプレゼンスを拡大してまいりましたが、長期化する円高及び昨今の金融不安による景気低迷により、欧州における受注環境の悪化が顕著となり、短期間での回復も見込めない状況であります。

一旦営業拠点を閉鎖し、ヨーロッパ支所で構築した販売網を本社からコントロールする体制に再編することを決断いたしました。  
これにより年間約20百万円のランニングコスト削減を見込んでおります。

## 経営合理化策 2

当施設は、当社グループのフィリピン拠点であり臨床試験施設として運営してまいりましたが、日本での臨床試験がスタートし今後の事業展開が見えたこと及びフィリピンの医療機関での臨床試験が可能となったことから、経営合理化を推し進めるために決断いたしました。これにより年間約30百万円のランニングコストの削減を見込んでおります。

当該物件は、日本商社が開発したマニラ郊外の工業団地内にあり日系企業の進出も多く、またフィリピン国内景気が活況なことから売却にあたっての懸念は少ないものと判断しております。

→ 現在、売却候補先の数社と交渉中です。

## 2013年3月期 課題:収益改善・確保への取り組み

### 受注・売上の確保と施設稼働率の改善

- ◆ 試験の受注、飼育／試験機器の販促
- ◆ サル試験の受注拡大による稼働率の向上⇒売上総利益率改善

### 原価・一般販売管理費の徹底した削減

- ◆ 重点投資案件以外の投資の圧縮
- ◆ 試験プロセスにおけるムダ取りの実施、工数削減
- ◆ 在庫レベルの見直しと内製化による原価削減
- ◆ 販売管理部門における徹底した人件費・経費抑制の継続

## 1. 株式の分割、単元株制度の採用の目的

平成19年11月に全国証券取引所が公表した「売買単位の集約に向けた行動計画」の趣旨を踏まえ、当社株式を上場している証券市場の利便性・流動性の向上に資するため、1株を100株に分割するとともに単元株制度の採用を行います。なお、この株式の分割及び単元株制度の採用に伴う投資単位の実質的な変更はありません。

## 2. 株式分割の方法

平成24年9月30日（日）（当日は休日につき実質的には平成24年9月28日（金））を基準日として、同日最終の株主名簿に記載又は記録された株主の所有する普通株式を、1株につき100株の割合をもって分割いたします。

ご清聴ありがとうございました

## IR連絡先

本資料に関するお問い合わせ

株式会社イナリサーチ  
社長室 IR担当

TEL : 0265-73-6647

医薬品開発のベストパートナー

 **Ina Research Inc.**

<http://www.ina-research.co.jp/>

## 本資料に関するご注意

本資料は、株式会社イナリサーチの事業及び業界動向に加えて、株式会社イナリサーチによる現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明はさまざまなリスクや不確かさがつきまっています。既に知られたもしくははまだ知られていないリスク、不確かさ、その他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。株式会社イナリサーチは将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なるか、さらに悪いこともありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、2012年5月30日現在において利用可能な情報に基づいて、株式会社イナリサーチにより2012年5月30日現在においてなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。